14　安全教育の実践事例

Ⅰ　生活安全

- 園外保育を通して 地域に親しみをもち 安全に対する意識やルールを守る必要感を学ぶ事例
- 学習器械や器具を正しく使用し安全・安心に配慮して授業を行う事例
- 実態調査や具体的な事例を活用したＳＮＳを安全に利用するための学習の事例
- 「安全マップ」づくりを通して 安全・安心なまちづくりのために地域へ発信する学習の事例

Ⅱ　交通安全

- 長期休業期間前に交通安全の意識を高める学習の事例
- 交通に関する様々な観点からの学習を通して 主体的に交通ルールを守る態度を育成する学習の事例
- 保健の授業を通して 交通マナーの意識を高め 自ら危険を予測し 回避することができる生徒を育成する学習の事例

Ⅲ　災害安全

- 「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」から地域の防災について考える学習の事例
- 自助のために必要な知識と共助のために必要な心を育てる学習の事例

Ⅳ　避難訓練

- 津波注意報発令時の避難（幼稚園）
- 地震・火災の発生、放送機器の使用不可（小学校）
- 地震・火災の発生、第二次避難（小学校）
- 休み時間中の火災、避難中に負傷者発生、生徒レスキュー隊による救助活動（中学校）
- 休み時間中の火災、想定していた避難経路が使用不可（高等学校）
- 近隣の川が氾濫する可能性が高まり、避難（高等学校）
- 地震発生〔予告なし〕（特別支援学校）

園外保育を通して　地域に親しみをもち　安全に対する意識やルールを守る必要感を学ぶ事例　生活

幼稚園５歳児（２年保育）

活動作りのポイント

○　幼児一人一人が安全な生活をしていくためには、「どんなことに気を付けるのか」「どうして気を付けた方が良いのか」など、安全に対する意識の育みが大切だと考える。園外へ出かける機会を活用し、事故や怪我をすることなく安全に行き来するために必要な事柄を幼児主体で考える機会を作る。そのことで、幼児が安全に対する意識やルールを守る必要感を学ばせる。

単元（題材）について

１　題材名　「園外保育を通して、地域の場に親しみをもとう」

２　目標

Ⅰ－４　地域や社会生活での安全

地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、安全に行動できるようにするとともに、安全・安心なまちづくりを目指す。

３　教材化の視点

本園の周辺地域は高層マンションの急増により新たにこの地域へ住み始めた家庭が増え、地域との関わりや所属意識があまり高くない。道路状況としては、国道には大型車が多く通り、歩道が狭い。そこで、幼児が小学生になったときに一人で安全に登下校や生活をするための一つには、幼児自身が生活している地域に親しみをもつことが必要だと考えた。そこで、園外に出かける機会を年間で複数回計画し、実際に歩きながら地域の特徴や交通ルールを守る必要性などを実感できるように継続して取り組むこととした。

４　これまでの取組と幼児の変容

１学期には、園の近くにある公園へ出かける事前と事後に「どうやったら安全に出掛けられるか」という視点で一人一人の考えを出し合い、様々なことに気を付ける大切さを学んできた。公園に出掛ける際には、可能な限り同じ道を使うようにしたことで、２学期に入ると、道の状況や周囲にある物や横断歩道・信号の場所などを幼児が気付くようになった。９月には教師の指示だけでなく、幼児自身が周りの状況から「前から自転車が来ている」「道が狭くなっている」など、そのときの安全な歩き方を判断する姿が少しずつ見られるようになった。

年間計画

時期	内容（行先）	◎安全教育の視点に立った幼児のねらい
５月	親子遠足（区民公園） 地域探検（区民公園）	◎地域に遊べる公園があることを知り、親子で遊ぶ。 ◎安全のために交通ルールがあることを知る。
６月	地域探検（区民公園）	◎交通量や車の速さに関心をもち、危険があることを知る。 ◎道中の建物や置物など、地域には様々なものがあることに気付く。
９月	地域探検（区民公園）	◎歩道や道路の状況に合わせてどのように歩いたら良いかが分かり、行動しようとする。 ◎道端にあるものや季節による植物や掲示物の変化など、地域のことで気付いたことを教師や友達と伝え合う。
１１月	遠足（地域の水族館）	◎自分たちが考えた約束事が学級の約束事になることが分かり、自己有能感をもつ。 ◎安全に歩行するために必要なことを考えたり教師の指示を聞いたりして行動する。

１１月	遠足（地域の遊園地）	◎年少児と一緒に行くことを楽しみ、安全に歩行できるように考えたり年少児に言葉を掛けたりする。
１月（本時）	地域探検（区民公園）	◎公園へ行くときに気を付けた方が良い場所や道、交通量のことなどが分かる。 ◎安全に歩行するために必要なことを考えたり教師の指示を聞いたりして行動する。
２月	遠足（地域の動物園）	◎年少児と一緒に行くことを楽しみ、安全に歩行できるように考えたり年少児に言葉を掛けたりする。

指導事例（１時間／１月）

１　ねらい

・公園へ行くときに気を付けた方が良い場所や道、交通量のことなどが分かり、どのように行動したら良いかを考える。
・教師や友達の考えを聞き、安全に過ごすために必要な行動がたくさんあることを知る。

２　ポイント

・安全に歩行するための約束事を幼児が具体的に考えられるように、掲示物を活用して、幼児がこれまでの実体験を踏まえながら考えられるようにする。
・具体的に何をどのように気を付ければ良いのかが分かるように教師が言葉を補いながら伝える。

３　指導の実際

○活動の流れ	◎教師の援助　　・環境設定
○学級で集まり、公園に遊びに行くことについて教師の話を聞く。	◎公園へ遊びに行くことをあらかじめ伝えておき、翌日に出掛けることについて幼児が期待感をもてるようにする。 ・どの公園に行くのかが分かり、道のりや遊具をイメージできるよう、掲示物を貼っておく。
○教師の問い掛けを聞き、安全に出かけるために必要な行動を考え、意見を出し合う。 	◎自転車や車、通行人など、事故につながりそうな状況がイメージできる言葉を掛け、幼児が安全を意識した行動を考えられるようにする。 ・極端に細い道や大きな交差点などの写真が入った地図を提示し、危険につながりそうな道をイメージできるようにする。 ◎幼児が自信をもって自分の考えを言えるように、言葉の区切りまで聞いたり、上手く言葉にならないときには幼児の思いに沿えるような言葉を補ったりしながら、一人一人の考えや意見を受け止める。 ◎幼児が考えた約束に対して、具体的な状況が思い描けるような言葉を補う。 ◎これまでの園外保育での姿や普段の生活の中で約束やルールを守っている姿の話をし、褒め、自信につなげる。それにより、幼児が進んで約束事を守って行動できるようにする。
○約束事や気を付けることを学級全体で決め、共有する。	◎出し合った考えを教師が幼児と共に整理し、学級全体の約束として幼児と確認し、共有する。

■評価

・公園へ行くときに気を付けた方が良い場所や道、交通量のことなどが分かり、どのように行動したら良いかを考えることができる。
・自分の考えを話したり、教師や友達の考えを聞いたりしながら、安全に過ごすために必要な行動について理解できる。

園児の変容

・状況や場面をイメージしながら気を付けることを考えたことで、とるべき行動を具体的に考えて発言していた。園外保育を楽しみにする姿につながった。

学習器械や器具を正しく使用し 安全・安心に配慮して授業を行う事例　生活

小学校　第３学年　体育科

授業づくりのポイント

○学習の進め方や場の作り方、安全のための約束等を掲示物などに示し、常に意識できるようにする。
○場の準備を二人以上で行わせ、必ず互いに声を掛け合うようにさせる。

単元（題材）について

１　**単元名**　器械運動「跳び箱運動」～安全に気を付けて運動しよう～

２　**目　標**

Ｉ－２　校内での安全

校内で起こる事故等の危険について理解し、安全に行動できるようにする。

３　**教材化の視点**

４月から７月までの３年生の保健室来室件数は３１６件で、学校全体の２９％を占めている。そのうち、体育の授業中のけがは３７件であり、打撲や捻挫が多かった。

安全に学校生活を送るために、なぜけがが起こったのか、どうしたらけがを防ぐことができるのか考えさせるとともに、けがの起こりやすい体育の授業で、器械や器具の正しい使い方を学ばせ、児童の安全に対する意識を高めていく。

指導計画（６時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1 （本時）	○場の準備・片付けの仕方や運動の仕方を知る。	◎器械・器具の運び方や置き方のきまりを指導する。
2 3 4	○きまりを守り、安全に気を付けて開脚跳びをする。 ○開脚跳びの自己の課題をつかみ、課題に合わせた場を選択し、友達と見合いながら課題解決に向けて運動する。	◎場や器械・器具の使い方、運動前後の合図、友達を見る位置などを互いに確認できるよう指導する。
5 6	○きまりを守り、安全に気を付けて台上前転をする。 ○台上前転の自己の課題をつかみ、課題に合わせた場を選択し、友達と見合いながら課題解決に向けて運動する。	◎場や器械・器具の使い方、運動前後の合図、友達を見る位置などに意識して互いに確認できるよう指導する。

指導事例（第１時／６時間）

１　**ねらい**

・安全を確かめながら場や器械・器具の準備・片付けをする。
・学習の流れを理解し、開脚跳びのポイントを理解する。

２　**ポイント**

・安全に用具の出し入れができるよう、用具の扱い方についての約束を提示する。また、用具の準備がしやすいように、用具の配置図を準備し、掲示しながら確認する。
・安全確認サインを学習内に取り入れる。跳び終わった児童は安全を確認した後、次の児童と目を合わせてからお互いに手をあげてサインを出すようにする。

3　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　　■評価（評価方法）
導入	○本時のめあてと学習内容を理解する。 安全な跳び箱運動の仕方を知り、技のポイントを意識して開脚跳びに挑戦しよう。 ○準備運動をする。 ○器械・器具の準備の仕方を知る。 ○場の準備をする。 	◎使う部位を意識させながら、主な運動につながる動きを取り入れる。 ◎器械、器具の運び方や置き方のきまりを確認させる。 ◎手を挟まないよう、持つ場所を指定する。 ◎パネルや壁面に、準備や片付けの仕方に関する資料を掲示し、視覚的に理解し、常に意識できるようにする。 ◎準備は２人以上で行い、必ず声を掛け合うよう言葉掛けをする。
展開	○もとになる動きを試す。 ・跳び上がり跳び下り ・またぎ越し ○開脚跳びの仕方（技のポイント）を知る。 ○開脚跳びに挑戦する。 ○気付いたことを話し合う。 ○整理運動 ○片付けをする	◎使っている器具の安全を確認させ、不具合がないか言葉掛けを行う。 ◎次の人が跳ぶタイミングを確認させる。 ◎安全確認のサインをお互いに行っているか確認する。 ◎役割に就き、場の安全を見ながら行っているか確認する。 ◎技のポイントにも照らし合わせる。 ◎使った部位を意識させる。 ◎器械、器具の運び方や置き方のきまりを再度確認させる。 ■安全を確かめながら場や器械・器具の準備・片付けをしている。（観察） ■学習の流れを理解し、技のポイントを意識して開脚跳びに挑戦している。（観察）
まとめ	○学習の振り返りをする。	◎安全に準備・片付けを行うことができたか、器具を使うことができたかを振り返り、発表させる。 ■器械・器具の準備・片付けをするときに気を付けることを理解している。（ワークシート）

児童の感想

・声を掛け合い、跳び箱を運ぶことができた。１段目は４人で運び、安全に気を付けたい。
・跳ぶ前、跳んだ後に手を挙げて合図をし、次の人と安全を確認することができた。

児童の変容

・第１時では教師が先導して使い方や運び方のきまりを確認していたが、学習を通して、児童同士で声を掛け合いながら、活動する姿が見られるようになった。

実態調査や具体的な事例を活用したＳＮＳを安全に利用するための学習の事例　生活

小学校　第６学年　特別活動（学級活動）

授業づくりのポイント

○実態調査やＳＮＳトラブルに関する動画等の具体的な事例を活用し、ＳＮＳのいじめや犯罪の危険について実感をもたせる。
○事後指導では、家庭に呼び掛け、家族全員で利用について振り返る機会を設ける。

単元（題材）について

１　題材名　「ＳＮＳの使い方を考えよう」

２　目　標

Ｉ－５　スマートフォン・携帯電話等使用時の安全

スマートフォン・携帯電話等を使用するときの危険性、ＳＮＳに関するトラブル、サイバー犯罪について理解し、安全に利用できるようにする。

３　教材化の視点

ＳＮＳアンケートを行った際、該当学年の約３割の児童が自分の携帯電話を持っていることが分かり、持っていないと回答した児童の約８割が中学生になったら携帯電話を所持すると回答した。また、自分の携帯電話を持っていなくても親の携帯電話や家庭のタブレットＰＣなどを使ってインターネットやゲームアプリ、ＳＮＳを利用したことがあると回答した児童は９割近くに迫る。

今後、多くの児童が携帯電話を所持することが想定され、ＳＮＳやインターネットを利用してトラブルを起こしたり、巻き込まれたりしないように、携帯電話やインターネットについて正しい知識や使い方、マナーや適切なコミュニケーション能力を身に付けさせる必要がある。そのため、実際の事例を用いながら、児童が身近な問題として考えられるようにする。

指導計画（３時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○ＳＮＳのメッセージ機能を使った友達関係のトラブルについて知り、トラブルになった要因と回避方法について話し合う。	◎児童の多くがＳＮＳを利用したことがあるという実態や、中学生になってＳＮＳを利用していることを想定して考えさせる。 ◎相手の立場に立ってやりとりをすることの大切さに気付かせる。
2（本時）	○ＳＮＳトラブルに関する動画を視聴し、トラブルになった要因と回避方法を考え、話し合う。	◎インターネットは便利だが、犯罪に巻き込まれるおそれがあることに気付かせる。 ◎インターネットの安全な利用の仕方を考えさせる。
3	○今まで学習してきたことを生かして、各グループでケーススタディを行い、考えたことを発表する。	◎ＳＮＳ東京ノートを活用し、身近なこととして考えさせる。
事後指導	安全指導日を設け、家庭で作ったルールの厳守について、定期的に振り返る。また、保護者会等で家庭に呼び掛け、家族全員で利用の仕方について振り返るように促す。	

指導事例（第２時／３時間）

１　ねらい

インターネット上には、「無料」という言葉を用いて個人情報を得る Web サイトやアプリが存在することを理解した上で、危険を回避し、安全に賢くインターネットを利用する態度を育てる。

２　ポイント

トラブルへの対処法と未然防止について、具体策とその理由を合わせて考えさせる。

３　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　　■評価（評価方法）
導入	○ＳＮＳアンケートの結果から、インターネットの危険性を共有する。 ○本時のめあてを確認する。	◎アンケートの結果を表にして掲示する。 ◎利用経験等から、インターネットの長所と短所を考えさせる。
	インターネットの安全な利用の仕方を考えよう。	
	○ＳＮＳトラブルに関する動画（導入編）を視聴し、トラブルが生じていることに気付く。 ○トラブルが起きた問題点について話し合う。	◎「無料」という言葉が、どのような意味で使われているのかを考えさせる。
展開	○トラブルへの対処法と未然防止について考える。 ・もしトラブルに巻き込まれたらどうするか。 ・トラブルに巻き込まれないようにするにはどうしたらよいか。	◎ワークシートに自分の考えを書かせる。
	○トラブルへの対処法と未然防止についてグループで話し合う。 ○学級全体で対処法と予防法について話し合い、共有する。 ○ＳＮＳトラブルに関する解説動画を視聴する。	◎意見を集約しやすいように、各グループにホワイトボードを用意する。 ◎各グループでまとめた内容をホワイトボードを使って全体で整理し、共通点などを考えさせる。
まとめ	○インターネットを利用する際、自分が気を付けることを考え、発表し合う。	◎自分で判断することの重要性を、児童に意識付ける。 ◎保護者や学校の先生等、信頼できる大人に相談することの大切さも伝える。 ■安全にインターネットを利用するための方法や自分が気を付けることを具体的に考えている。（ワークシート）

児童の感想

・「無料」という言葉や画面上の雰囲気だけで安全かどうかを判断することの難しさを実感した。
・一瞬で危険なサイトにつながってしまう怖さから、フィルタリングの必要性について考えるようになった。
・画面の向こう側にいる人や組織を意識することの大切さが分かった。

児童の変容

・調べ学習等で様々なサイトにアクセスする際にも、安全な検索サイトを選んで使用しようとする意識が高まり、画面の様子で安易に判断し、アクセスしないように吟味しながら活用する姿が見られるようになった。

「安全マップ」づくりを通して 安全・安心なまちづくりのために地域へ発信する学習の事例　生活

小学校　第４学年　総合的な学習の時間

授業づくりのポイント

○地域安全マップ作りでは、危険な場所について指摘するだけでなく、「どうすれば安全になるか」を考えさせることで、危険を回避し、安全・安心なまちづくりを目指すことができるようにする。
○地域の方々を招いて対話することで、地域の一員として安全・安心なまちづくりを目指す意識を高める。

単元（題材）について

１　**単元名**　「地域安全マップを作ろう」

２　**目　標**

Ｉ－４　地域や社会生活での安全

地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、安全に行動できるようにするとともに、安全・安心なまちづくりを目指す。

３　**教材化の視点**

児童は、これまでに避難訓練や社会科の「安全なくらし」の学習を通して、身近で起こる災害や事故の事実を知り、自分の身を守るためにどのようなことに気を付けるべきか、ある程度理解してきている。また、地域探検を通して、「子ども１１０番」の家や防犯カメラを地域で設置しているなど、地域の方々の安全への願いも知ることができた。

このような学習を生かし、今後は、自分たちの安全だけでなく地域社会全体の安全を考え、みんなでより良い安心・安全なまちづくりをしていこうという地域社会の一員としての自覚をもち、行動に移していくことを目指す。

指導計画（１０時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○地域の危険な場所とは、どんな場所なのかを考え、話し合う。	◎地域の家が並ぶ道路等を写真で提示し、地域の危険な場所を想起しやすくする。
2	○地域安全マップを作る計画を立てる。	◎調査の仕方やフィールドワークのきまりについて確認する。
3	○１回目のフィールドワークを行い、危険な場所を調査する。	◎「入りやすく・見えにくい」を基準に調査させ、メモ、写真撮影、インタビューをさせる。
4・5	○フィールドワークの成果を見やすく分かりやすく地域安全マップにまとめる。	◎地図の作製例を提示し、地域安全マップの作り方を理解させる。
6	○地域安全マップをもとに気付いたことを話し合う。	◎対話を通して気付きを共有し、新たな気付きや疑問がもてるようにする。
7	○２回目のフィールドワークを行い、危険な場所を調査する。	◎１回目で気付かなかった場所や安全にするための対策を中心に考えさせる。
8	○フィールドワークの成果を地域安全マップに付け足す。	◎１回目の気付きを書いたカードとは異なる色で付け足し、視覚的に気付きの変容を捉えられるようにする。
9	○新たな気付きを話し合う。	◎学びの成果を共有し、地域に発信しようとする意識がもてるようにする。
１０（本時）	○外部の方々を招いて対話し、成果を安全・安心なまちづくりのためにどのように活かすかを考える。	◎地域の方々と対話を通し、地域の一員として安全・安心なまちづくりを目指せるようにする。

事後指導	地域安全マップを全校児童や保護者に発表したり、地域の掲示版に掲示したりして、全校児童や地域、保護者等と地域の安全について考えられるようにする。

指導事例（第１０時／１０時間）

１　ねらい

地域安全マップ作りの成果を発表し、地域の町会長や保護者、ＰＴＡの校外の方々との対話を通し、安全・安心なまちづくりのために活かせることを考える。

２　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　　■評価（評価方法）
導入	○前時の地域安全マップ作りの成果を振り返り、共有する。 ○本時の学習内容とめあてを確認する。 地域安全マップを発表し、地域や保護者の方々と対話することで、安心・安全なまちづくりのために活かせることを考えよう。	◎短冊にまとめた前時のポイントを板書に掲示し、振り返りをしやすくする。
展開	○対話のときに発表したい自分の考えをワークシートに整理する。 ○エリアごとに発表しながら、地域や保護者の方々と対話をする。 ＜対話の視点＞ ・危険箇所や安全への留意点 ・安全・安心な町づくりをするための、自分たちの行動目標 ○対話を通して、危険箇所を再確認し、注意すべきことを知る。 ○対話を通して、自分たちにできそうなことを考える。 	◎自分で考えられない児童には、机間指導をしながら前回のワークシートの内容を価値付け、どのようにすると安心・安全になれるかを一緒に考える。 （補足：地域マップは、児童の居住エリアごとにグループとして分け、調べさせている。） ◎児童がハンドサインを用いながら、みんなで考えをつなぎ、深めていけるように、視点や要点を整理しながらコーディネイトする。 ◎地域の方々にも考えを聞くことで、地域の方々の願いや児童だけでは気付かなかった注意すべきことも知ることができるようにする。 ◎４年生として、自分たちにできそうなことは何かを考えさせる。 ◎対話をしながら成果を共有させ、安心・安全なまちづくりのためにできそうなことについて意識を高めさせる。 ■安全・安心なまちづくりをしていく上で活かせることを考えることができる。 （ワークシート）
まとめ	○本時の内容及び題材全体を振り返り、学んだことや今後意識していくことなどを発表する。	◎振り返りの視点を明確にし、考えを書きやすくする。 ◎本時までのワークシートや教室掲示も参考にさせる。

児童の感想

・地域の安全・安心のためにみんなで協力していくことが大切だと分かりました。協力して安全な町をつくるために、自分たちにできることを今から始めたい。

児童の変容

・自分たちで地域の危険な箇所を見付け、改善策を考え、それを地域の方々に発信したり、地域の方々のお話を聞いたりしたことで、地域の一員として共に安全・安心な町づくりをしていこうという考えがもてるようになった。
・危険な箇所を知るだけでなく、それを回避するためにはどのように行動したらよいか自分で考えるようになり、安全についての意識が高まった。